

「confa」はConsumer(消費者=道民)とFarmer(農業者)のConsensus(合意)から名付けたもので、「消費者と農業者がもっとふれあえるように」「都市と農村をつなぐ架け橋になりたい」という想いを込めています。

もくじ 2020 秋号 vol.55

- 1 [特集] 農業は、いろんなシゴトでできている。
- 7 農業×まちおこし
- 9 ふれあいファームへようこそ
- 13 キラリ★農業系高校
- 15 コンファ農業教室
- 17 農のことば
- 18 北海道からのお知らせ
- 19 産直マップ

SNSはじめました
今号より、Facebook・Instagramを開設しました。ぜひ、チェックしてくださいね。

Facebook
@confa.hokkaido

Instagram
@confa.hokkaido

電子ブック公開中!
Hokkaido ebooks

こちらのQRコードを読み取ってください。
※スマートフォン、タブレットの方は専用アプリ(無料)をダウンロードのうえ、ご利用ください。

<http://www.hokkaido-ebooks.jp>

※QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。



持田 直哉さん

持田 拓哉さん

機械のチカラで酪農の未来を拓く

「機械化」は酪農の未来を支えるカギの一つ

後継者不足などにより、この20年で全国の酪農家戸数が半減する中、酪農の主産地である北海道には、生乳生産量の増加が求められている。

このため、新得町の持田牧場は、生産量の増加と作業の効率化を目指して、各種農業機械の導入に踏み切った。こうした酪農家のパートナーとなるのが農業機械メーカーや販売店だ。

牧場の機械化を支える
(株)コーンズ・エージー サービスエンジニア
もちだ たくや
持田 拓哉さん

「人材確保が困難な中、規模拡大するには機械化は必須。ただ、大きな初期投資はネックですし、仮に故障すると生産量や収益が減少する怖さもありました」と代表の持田直哉さん。その不安を打ち消してくれたのは、農業機械輸入販売会社で働く兄の拓哉さんの存在だった。

「僕は酪農に必要な機械の保守や定期メンテナンスを担うサービスエンジニアです。動物相手の仕事はいつ何が起るか分かりませんが、自分たちは交代制で24時間365日トラブル対応にあたっています」

「ありがとう」の重みが段違い

ここ最近、持田牧場が取り入れたのは搾乳ロボット。乳牛の好きなタイミングで搾乳できるうえ、個体ごとの搾乳回数や乳量、乳成分といったデータも得られるので、飼養管理の改善につなげることができる。

「決まった時間に搾乳するよりも、乳牛にとってはストレスが少ないようです。平均乳量がグッと上がったうえ、搾乳の時間を別の仕事に有効活用できるようになりました。機械に何かあったら、担当者である兄にすぐ電話します」と直哉さんは笑う。



乳牛の好きなタイミングで搾乳できるロボット



搾乳ロボットは、乳量はもちろん繁殖管理など、細かな情報まで一元管理が可能だ



サービスエンジニアの拓哉さんは、農家からのSOSを受けるとすぐに駆けつけ、トラブル対応にあたる

搾乳ロボットをメインで担当する拓哉さんは、生産者の「SOS」を受けると現場へ急行。故障の際は機械を止めて修理しなければならぬので、搾乳ができない時間は酪農家にとって生産ロスとなる。トラブル対応は文字どおり時間との勝負だ。

「だからこそ、僕も必死。プレッシャーはありますが、直った時の『ありがとう』は重みが段違いです」

酪農家の感謝と信頼の積み重ねが「給与よりもずっとモチベーションにつながります」と、拓哉さんは表情を引き締める。こうしたエンジニアたちの真摯な仕事ぶりも、酪農の世界とその明るい未来を力強く支えているのだ。

大規模な牧場の仕事を支える機械



エサ寄せロボット

牛が食べやすい場所にエサを寄せる



ミキサーフィーダー

牧草や穀物などを均一に混合して給餌する機械



バイオガスプラント

家畜ふん尿(有機性廃棄物)を有効活用し、電気・ガス等のエネルギーを作り出すプラント